■新建築家技術者集団■　　SHINKEN・AICHI・BRANCH・NEWS

新建あいち　2026.12月号

新建愛知支部事務局　：　株式会社　宮工務店　気付　　〒486-0904　春日井市宮町1-11-25

URL http://nu-ae.com ホームページ（2022年4月～）　　TEL　0568-34-7775　　FAX　0568-34-7797

■　埼玉での『建築とまちづくりセミナー』　が

無事に終了をしました。

2026年10月3日（土）と4日（日）に埼玉で『建築とまちづくりセミナーin埼玉』が開催されました。～埼玉から愛を込めて「建築とまち」の歴史と未来を考える～をテーマに埼玉会館で行われました。午前中にプレ企画として、浦和駅周辺の散策や会場である埼玉会館の見学もありました。

初日の3日（土）は、第一講座から第五講座まであり、4日（日）は、第六講座と第七講座、トークセッションがあり、閉校式、エスカレーション企画で、5日（月）にまち歩き企画が4コース、行われました。参加者は、新建会員、会員外を含めて、全部で86名でした。

今回のセミナーは、「埼玉から愛を込めて、『建築とまち』の歴史と未来を考える」をテーマに、埼玉各地で取り組まれている市民参加のまちづくり、歴史的建築物や産業遺産の保存・活用、文化を核としたまちづくり、行政と市民・民間との協働、そして、再開発の課題まで、幅広いテーマを学びました。会場となった埼玉会館は、前川國男設計による歴史的な建築です。「埼玉会館が会場という事でテンションが上がった」や「良い雰囲気の中でセミナーが行われ、参加してよかった」との声も聞かれ、建築そのものの魅力を感じながら学ぶ二日間となりました。

今回は、残念ながら愛知支部からの参加はいませんでしたが、全国の新建の仲間との交流は、全国企画では、一番楽しい時間ですので、今後は、支部での積極的な参加を呼び掛けていきたいと思いました。埼玉セミナーの文章や写真は、新建のホームページから掲載しました。セミナーの内容や感想など詳しくは、新建のホームページでご確認して下さい。　　（愛知支部　甫立浩一）



埼玉会館での講座



埼玉会館内のビストロやまでの懇親会

■ 自立生活と生活資本
～居住福祉と生活資本の構築(191)

岡本 祥浩

知的障がい者が親元を離れ、街中でアパートなどを借りて、支援を受けながら自分なりの暮らしを形づくる「自立生活」を紹介する書籍が出版された。本人、支援者、家族などの「自立生活の支援」での葛藤を記載している。知的障がい者の自立生活や支援は、障がい者本人の思いを軸に支援者が地域社会の有している資源や生活を支える機能を結び付けて「自立生活」を実現している。これは生活を実現する「生活資本」である。著者は「自立生活」が「うまく」展開するかは、地域社会の問題としている。本稿では『知的障がい者の自立生活』から関係する部分を取り上げて紹介する。

住まいと生活費

「自立生活」の基盤は「住まい」と「生活費」である。都営住宅や公団住宅に住んでいる例もあるが、便利な住宅は入居が難しく一般的な古い民間アパートが多いと言う。それは市場家賃が高いということもあるが、重度障がい者に部屋を貸してくれる大家が多くなく、部屋探しが困難であることの結果でもある。

生活費は、障害年金と、働いていれば給与や工賃が加わるが、足りない場合が多く、生活保護の受給で補っているとのことである。

生活と意思

「自立生活」は、親元での暮らしや入所施設での暮らしとは違う。親などに依存せず、行動を自分で決めることから始まる。その自己決定を始めるには選択肢として何があるのか、その結果はどうなるのかが分かる必要がある。そのための体験や情報が必要である。そこに教育という社会機能の大切さが認識できる。

生活と支援と環境

生活の実現には、様々な生活行為の支援とそれを実現する環境条件が必要になる。生活の支援は特別なものでなく、エレベーターや雇用なども他人の支援であるから、実は人の助けや他人の支援無しでは一般的に誰も暮らせない。従来は、地域の人々の相互扶助の中で障がい者本人のできないことが補われてきたのである。

環境条件は支援の受け入れの難易を左右する。例えば、同じアパートに相談できる人が住んでいる。RC の集合住宅や戸建てだと音や振動の発生を気にしなくても良い。子どもの頃から住んでいると周囲の人々が理解し、当事者を無理なく受け入れられ易い。広い住宅だと支援者を受け入れ易い。更に日中通う「たまり場」的な場があると、障がい者本人と支援者という一対一の関係だけでなく暮らしに変化が生まれ、ストレスも溜まりにくいと考えられる。

以上のように、暮らしが実現するには「住宅」「生活費」当事者の意思やその基盤となる「情報や教育」「生活を支える支援」やそれを実現させ易い「環境条件」が融合する必要性が認識できる。また、それらの機能には人々がお互いに理解できる時間の経過も必要である。

【参考文献】
・三井さよ(2026)『知的障がい者の自立生活　−行きつ戻りつ、ともに生きる』(岩波新書 2129)

（中京大学教授、新建会員）

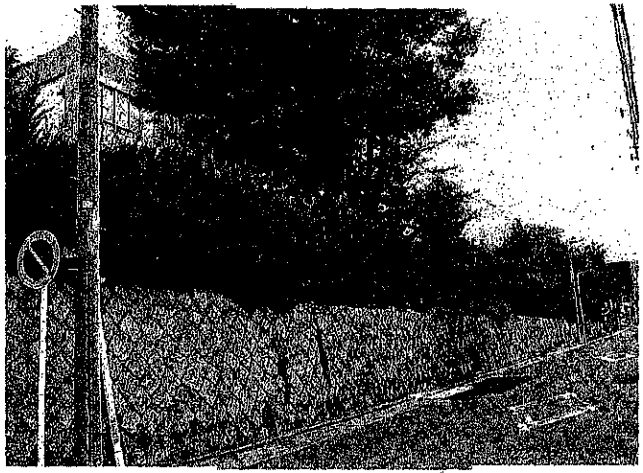
歴史から見た町名（十九）

亀城町（かめしろちょう）（瑞穂区）

御劔小学校北に亀城町という町名があります。東から西に向かっての傾斜地になっています。この町名は大正から昭和にかけて行われた耕地整理事業の終わったあと、昭和6年に南区瑞穂町の一部から生まれました。亀城町の名は、この辺りの江戸時代からの字名、「亀田」と「城ノ内」を含む12の字名を統合するかたちで生まれました。同7年には瑞穂町字「中ノ切」を編入したあと、行政区の変更により、同12年昭和区、同19年瑞穂区となって現在に至っています。

現在の御劔小学校の辺りは、平安末期に高田四郎重家によって築かれた高田城と呼ばれた城がありました。永禄3年（1560）頃には、織田信長の臣であった、村瀬淨心が城主となりました。城域は東西約106m、南北約50mであったと云われていますが、すぐに廃城となり、江戸時代に書かれた「張州府志」によれば「其地今為二陸田一」とあって荒れ果てて畑になったことがわかり、今ではその址すら知る事ができなくなっています。城ノ内という字名が残されていることから城があったことを推測するのみです。城ノ内の西には新池と呼ばれる灌漑池があり、更にこの西が亀田と呼ばれる地域でした。城ノ内は全体が高台になっており、亀田は低地でした。したがって、高台は畑となり、低地である亀田は田に利用されていました。その間は崖になっており、湧水もあったと云われています。この湧水が新池をつくっていたものと思われます。この池は、大正の頃までは、この地をうるおす灌漑用の水に使われていました。

城跡を含む、江戸時代の字名から生まれた町名ですが、現在では住宅地となっています。



高田城があったとされる御劔小学校（南側より見る）



大正5年に描かれた城ノ内と亀田

■ 新建愛知支部　2026 年 10 月　支部幹事会だより

10 月 23 日（水）19：00～21：00（リアル＆オンライン）

参加者／入谷、奥野、河合、黒野、中森、福田、甫立

（1）　建築とまちづくり in 埼玉は、10/3～4 で無事に終了をしました。86 名の参加がありました。

（2）　新建賞の募集を開始しました。募集の詳細は、新建のホームページで内容の確認して下さい。

（3）　建築基準法の改正などについての、仕事での経験や意見交流、勉強会を開催しようと思います。

（4）　皆さまから、企画・見学会案を募集します。楽しく勉強と交流のできる企画をつくりませんか？

今後の幹事会は、11/18（水）、12/16（水）2027 年 1/20（水）、午後 7 時で日程の確認をしました。

❖❖❖

■名古屋錦二丁目　みちにわマルシェ　２０２６

10/24（土）みちにわマルシェに行きました。錦二丁目喫茶七番の横のみち（並木路）を街の人のにわ（庭）に、という秋のマルシェ、今回で第 7 回です。

本部にいて写真撮影などしていた名畑さんとも久しぶりにお話しできました！

L 型の車道と歩道に、テント・人工芝・木のベンチなどが拡がってたくさんの人でにぎわっていました。道路に落書きできるようになっていたり、突き当りに消防車がとまっていたり、たくさんの仕掛けがありました。テントの珈琲・パンなどとともに、道沿いの飲食店の露店もあり、その場でソーセージを焼いてはさんでくれるホットドッグや、すじ肉のドテ煮ドテ串を楽しみました。仏で修行されたパティシエの見たことのないフランス菓子は安城のオトモ菓子店さん。鈴鹿の喫茶店でいつもスープと共に出してくれるパンは、伊勢市パン屋麦さんのパン。その喫茶店で夜カフェをひらいてくれている、出張喫茶ヤマモクのヤスさんは熊本応援のコーヒーを。ぼくはマルシェで知り合いに会う楽しみを味わいながら、隣の人は、今はなくなってしまった、長者町ゑびす祭りのにぎわいを想い出していたようです。（黒野）







❖❖❖

■ 愛知支部事務局・財政からのお願い

新建会費『2026 年後期分』請求をお送りしています。未納の方は早急振込をお願いします。

2026 年以前未納の方にも、同様に 2026 年後期分と合わせて請求させて頂いています。

新建会費は、前納制となっていますのでご協力よろしくお願いします。

※ 振込手数料は、各自でご負担をお願いします。